



社会にフォーカス

Vol. 9

「移動販売車」

平成27年1月22日に、田村市都路地区初のコンビニエンスストア(以下コンビニ)がオープンしました。オープン初日には、目玉商品の卵や牛乳が飛ぶように売れたそうです。このことを報道するテレビのニュース番組の中で、買い物を終えた高齢者が、口々に「これで遠くまで買い物に行かなくて済む」とインタビューに答えていました。

自宅の近くに店が無い高齢者にとって、歩いて買い物に行けるほどの場所にコンビニができたことは、それほどうれしい出来事だったのでしょうか。

店が動いてやってくる！ ～店の形態から学べること～

ところで、“動く店”、「移動販売車」を見かけたことはありませんか？

ここ会津地方は山間部が多く、過疎化や高齢化が進む地域が少なくありません。そのような土地柄か、食料品や日用品を車に載せて、山あいの地域などに出向いて販売する「移動販売車」を見かけることがあります。

小学3年生の社会科では、店の仕事について学ぶ際には、主にスーパーやコンビニを対象とすることが多いと思いますが、それらについて学んだ後に、

「移動販売車」について取り上げてみるのもおもしろいでしょう。



「移動販売車」という社会的現象がもつ、次の意味や働きについて学ぶことができます。

食料品や日用品を売る「移動販売車」	
販売者の立場から	消費者の立場から
山間部のように人口が少ない地域では、買い物に来る人も少ないので、店が動いた方がたくさんの客に商品を買ってもらえる。	店が近くに無い人にとっては、店（移動販売車）が家の近くまで来てくれるので、買い物に行くのが楽になる。特に、高齢者や自家用車等の交通手段を持たない人にとっては大変助かる。



「移動販売車」について学習することで、都市部や山間部など地域の実態に応じた店の形態があることに気付かせることができます。

また、過疎化や高齢化等の地域における人口の動態に触れさせたり、現代社会の問題に目を向けさせたりすることもできます。